



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第33回例会(3月13日)
平成27年3月20日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例会場 同上 TEL(651)1111(代)
例会日 毎週金曜日12時30分～

会長 長澤 茂
幹事 橋山 桂
会報 古山 明廣
クラブ事務局 TEL(653)5682
FAX(653)5622

Light Up Rotary, 'ロータリーに輝きを' ゲイリー C. K. ホアン

2014-2015 年度

環境保全ポスター表彰式

受賞者のことば



(左から) 金賞 高橋未佳 様・銀賞 高橋真菜 様・銅賞 宇夫方康夫 様

●金賞受賞 高橋未佳様

盛岡情報ビジネス専門学校1年の高橋未佳と申します。この度は名誉な賞を頂き、誠にありがとうございました。主催者の方々に心より御礼申し上げます。

今回の作品を作るにあたって、第三者に環境温暖化について危機感を感じてもらうにはどうしたらいいのか、ポスターとして見てもらえるものなのかという2点を考え、作成いたしました。自分は毎回ごちゃごちゃと考えてしまい、最後には伝えたいことが第三者に伝わらないことが多々あり、今回の作品作りでもそのような状態になっているところに先生から「伝えたいことをストレートに出す。」とのアドバイスをいただいて、吹っ切れることができました。今回このような賞を頂いたのは先生方のお陰だと思います。本当にありがとうございました。今

回の受賞を励みに、奢ることなく精進していこうと思います。

●銀賞受賞 高橋真菜様

盛岡情報ビジネス専門学校の高橋真菜です。この度は大変名誉な賞をいただきまして、誠にありがとうございます。

思いがけず、このようなすばらしい賞をいただき、驚きとともに大きな喜びを感じています。

今回、賞をいただいた作品は環境保全ということで、地球温暖化をテーマとして制作しました。動物目線でシンプルに温暖化への反対の訴えを表現しました。

たくさんの海の生物達を可愛いシルエットで配置し、色も三色でまとめることによって全体の見た目をすっきりさせ、キャッチコピーもシンプルにすることで意味強調させています。

これからは学生を卒業し、社会人としての生活が始まりますが、積極的に作品展やポスター展などにも関わっていただきたいと思います。

今回は名誉ある賞をいただきまして、本当にありがとうございました。

●銅賞受賞 宇夫方康夫様

久しぶりにお目にかかります。金賞・銀賞の受賞者は盛岡情報ビジネス専門学校の生徒さん

という事で、私も10年ほど講師をして教えておりました。これからは教わらなければならないかと思えます。間もなく私も80才になります。正に老いたら子に従えてございましょうか。とはいえ、まだまだ負けずに頑張りたいと思っております。またいつの日かこちらに来られるように頑張りますのでよろしく願いいたします。



講評

岩手デザイナー協会 会長
村上 由美子 様

こんにちは。岩手デザイナー協会の村上由美子と申します。

本日は、環境保全ポスターの表彰式にお招きいただきまして、ありがとうございます。また、かねてより当協会の活動に対しましては、さまざまな御支援をいただきまして心より厚く御礼申し上げます。

第67回を数えました岩手芸術祭・デザイン部門の環境課題におきまして、応募作品26点の中から金賞・銀賞・銅賞に輝かれた皆様、本当に、おめでとうございます。それぞれの作品につきましては、後ほど講評を述べさせていただきます。

一昨日、3月11日を持ちまして、東日本大震災の発生から丸4年という月日が経ったこととなります。ここに、お集まりの皆様一人ひとりの胸には、どんな思いが去来しているのでしょうか。

それぞれの震災があり、それぞれの震災後が未来へと続き、さまざまな体験と時の流れは、3・11以前から、連綿と繋がってきているように感じておりました。

そのような折、昨年の冬になりますが、岩手県立大学総合政策学部の地域貢献プロジェクトの一環で、[いわて地誌アーカイブシリーズ]

の第一巻「岩泉・海と小本」が刊行されることになり、民間メンバーの一人として、アートディレクションとデザインを担当させていただきました。これは、津波被災地の震災前から現在までの復興の軌跡を記録・検証した本です。大津波が水門に衝突する迫真の瞬間や、その後の被災状況を巡る画像などが収められています。また、インフラや住環境の整備など復興の様子、さらに全国へ知られる民俗芸能・中野七頭舞に象徴される地域資源のほか、これぞ小本という場面の数々が掲載されています。数十年を遡る記録写真を通し、そもそもの自然、海と人との結びつきや人間が環境を造り変えてきた経緯なども盛り込み、さまざまな角度から記憶・記録を後世へと引き継ぐ試みです。

それは、可視化という作業を通し、そこに在るものを確認・検証すること。ふるさとのアイデンティティを、より多くの人々が共有できる仕組みを構築すること。そして、刹那的・近視眼的に復興だ、地域づくりだ、と一過性のムードや同調圧力に流されるのではなく一人ひとりが当事者意識を高め、長いスパンで多様な事実や課題を捉え、みんなで考えて行動してみる…。そんな機運の現れだと思っています。特効薬のように一朝一夕に成果が挙がるとは言えませんが、こうした方法論の実践に携わり、コミュニティ支援や地域づくりのサポート役を、微力ながら務めさせていただきました。私自身、普段の仕事とは少し違い、いろいろと勉強になることが多かったと思います。

もう一つの事例としては、この2月21日、大槌町浪板海岸の三陸花ホテルはまぎく、にて「岩手の海岸・緑の再生シンポジウム」が開催

されました。縁あって、ポスターやチラシなどの広報ツールを制作させて頂きました。その趣旨も意義も根底では、先程の県立大学の取り組みと共通しているという認識を強くしました。

これからの被災地、ひいては、この国のカタチを、より良くするために必要なのは、あまたの事実に対して感性や想像力を巡らせ、どう在るべきか、とマクロ的・ミクロ的に考察して、次世代への道筋を構想する、言わば、現場力「げんぱりよく」だと思います。地元の人も、地元以外の人も手を携え、それぞれの役割を果たせる仕組みづくりが欠かせないと思っています。

大槌でのシンポジウムには、生物多様性・緑化・海岸林に関する研究者や実務家に加え、郷土芸能・観光業・水産業・森づくり、といった分野で活動する方々が講師として集まりました。現地視察、基調講演、事例報告、パネルディスカッションなど多彩なプログラムでした。「海岸林を含む自然環境の回復こそが、地域の復興を図る原点である」との明確な目的意識を分かち合い、それならば地元で何が出来るか、という主体的な視点で考えを深め、広くメッセージを発信する機会としても意義深いものでした。

このように、環境問題との関わりの中で、改めて受賞作品を見てみますと、創り手のさまざまな意思やメッセージを感じ取ることが出来ます。

はじめに、栄えある金賞に輝きました高橋未佳さんの作品「これ以上削れません」は、この地球上に息づく多種多様な生命の存続を危うくする、温暖化という現象が刻々と進行してゆく危機的な状況を、今まさに溶けゆく極北の氷を通して訴えています。

鉛筆に見立てた氷の先端に、危ういバランスで立たざるを得なくなったペンギンが「もはや救いを求めるしか手立ては無い…」という叫びを上げ、訴えかける様子が「SOS」という赤い文字で表されています。

さらに、ホワイトスペースを活かしつつ、シンプルに素材を配置したことにより、作品全体に絶対的なりアリティと有無を言わせぬ緊張感が漂っています。

続きまして、銀賞の高橋真菜さんの作品「青」は、世界各地における海水温の上昇により、デリケートな生態系が被ってしまう図り知れないダメージを危惧しています。

「あつい海はきれいです」というキャッチコピーが添えられています。身近な環境の異変を即座に感じ取る、シロクマへの危機が、私たち人間にとっても無縁ではないことを強く訴えているようです。

クジラ・サメ・マンボウ・イルカ・ヒラメ・ヒトデ・タツノコ・イカ・サザエ・カニ・カメ・クラゲなどなど、海洋に棲息する多くの生き物たちが青色のシルエットで表されています。これらの生命体は、海流を想起させる大きなうねりの中で命を育てています。このように多種多様な現象の集まりこそが、大いなる自然の摂理の表れなのではないか、と私は強く感じています。

続きまして、銅賞の宇夫方康夫さんの作品「22世紀への贈り物」は、ピュアで美しく、豊かに広がってゆく、かけがえのない大自然を未来へ引き継ごうという想いの表れに他なりません。

これからの時代へ人類の希望を託そうと、タイムカプセルに見立てたガラスの密閉瓶の中身は、自然界のシンボリックな存在として、いつまでも大切に残していきたい森林です。私たち人間は、あくまでも地上に息づく生命体の一部なのであり、自然界との関わりを通して、さまざまな恵みを得たり癒しを感じたりしています。

こうした半面、そもその自然が本質的に有する破壊的で無慈悲なまでのエネルギーは、痛ましい災害を各地で引き起こし、それらの被害や悲しみを伝えるニュースは日常化しています。重くて辛い事実と真摯に向き合い、明日への英知を培えば、さまざまに取り沙汰される環境破壊や災害リスクに対し、何かしらブレーキを掛けられるのではないのでしょうか。

このように、審査させていただくことで感じるのは、自分自身への警句やら教訓やらを込め、考えたり行動したりする日頃の実践が将来に向けて、いろいろな価値を持つであろう、ということです。

この自分が…、地元が…、岩手が…、そしてニッポンが…、どうなってゆくのだろうという意識で、しばしば考える場面が増えてきました。さらに、その先には、この地球が存在していけるか否かという想像のカオスが待ち受けています。まずは身近な環境を愛おむシンプルな心遣いを持つことが、日常生活やデザイン、ひいては社会・経済活動の基本なのだという思いを新たにしています。

今日、岩手のデザイン界ではベテランはもとより、学生や若い世代の才能が着実に芽吹きつつあるように感じられます。ここに、お集まり

の皆様からも、それぞれの成長に大いに関心を寄せて頂けると幸甚に存じます。

おかげを持ちまして、岩手デザイナー協会は昨年、50周年の大きな節目を迎えることが出来ました。岩手県民会館で開催しました50周年展には多くの皆様にお越し頂き、誠にありがとうございました。引き続き、当協会の活動に対しまして御理解・御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

今日は、美味しいお弁当と御静聴をありがとうございました。

例会報告

第33回例会 平成27年3月13日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司 会 長澤 茂会長
- ・ソング 我らの生業
- ・四つのテスト斉唱
- ・ゲスト 村上由美子様(岩手デザイナー協会 会長)・高橋未佳様(環境保全ポスター金賞受賞者)・高橋真菜様(環境保全ポスター銀賞受賞者)・宇夫方康夫様(環境保全ポスター銅賞受賞者)
- ・皆出席パッチ 白石 茂君(26年)。
- ・会長報告 長澤 茂会長
- ・入会祝 白石 茂・江口博朗・勝

雅行・吉原伸和君。

- ・誕生祝 白石 茂・荻野忠良君。
 - ・結婚祝 勝 雅行・千葉隆史君。
 - ・幹事報告 樋山 桂幹事
- 終了後臨時理事会開催

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡南R.C.=3月31日(火)は、通常夜例会18:30~「盛岡居酒屋 遊食屋 FUJI」会場変更。

【ニコニコBOX】

- ◆長澤 茂君…昨夜自宅でビールを飲み始めた時、幹事から電話があり「そろそろつきますか」ということでした。「どこに」というと「今日は会長幹事会です」。ビック

リして30分遅れて会場にはせ参じました。たまたまガバナーが1時間30分ほど遅れてきたのであまり目立たなかったかなと思ってニコニコします。

- ◆平野佳則君…本日長男が無事中学校を卒業いたしましたのでニコニコします。

●メイクアップ

地区=樋山・西島・岡村・佐藤(重)・大平君。盛岡南R.C.=福田・熊谷(祐)・佐藤(仁)君。盛岡東R.C.=吉田(幸)君。盛岡中央R.C.=長谷川・橋本・菊地・竹中君。盛岡滝ノ沢R.C.=勝・平賀君。クラブ委員会=星君。

出席報告

会員数 /73 名

出席数 /42 名

出席率 /61.76%

前々回修正出席率 /74.91%

プログラムの お知らせ

- ・3月20日(金) ゲスト卓話 畠山節子様(NPO 法人 ボランの広場 盛岡地区父母会会長)「ボランの広場活動報告」
- 27日(金) ゲスト卓話 中村光紀様(萬鉄五郎記念美術館 館長)「萬鉄五郎の「裸体美人」について」
- ・4月 3日(金) 新入会員卓話 堺田幸志会員
- 10日(金) ゲスト卓話 金田玲子様(style-R 代表)
- 19日(日) 地区大会(17日例会変更)
- 23日(木) 観桜会(24日例会変更)

●本号編集担当 / 古山 明廣

●次号編集担当 / 古山 明廣